

戸沢村水道ビジョン

2009～2018

～安全な水、快適な水を安定して供給します～

平成22年1月

山形県戸沢村

目 次

策定の趣旨	1
事業内容	2
1.事業概要	2
2.事業実績	4
現状分析・評価	8
1.安全・快適で安定した水の供給	8
2.安定した事業運営	12
3.環境影響	14
課題	15
1.安全・快適で安定した水の供給	15
2.安定した事業運営	15
3.環境影響	16
戸沢村簡易水道事業の将来像	17
1. 基本理念	17
2. 施策体系	18
3. 実現方策	20
4. フォローアップ	30
事業計画及び財政計画	31
事業統合への取組み	32
資料	
1. 水道用語解説	33
2. 業務指標	39

策定の趣旨

[計画の背景]

- ・ 少子高齢化の進行による人口の減少
- ・ 節水意識の向上等による水需要の減少
- ・ 創設当時の老朽化施設の更新
- ・ 地震などの災害に備えた信頼性の高い施設の整備と構築
- ・ 料金収入の増加を伴わない施設整備への投資
- ・ 第三者への業務委託が制度化
- ・ 「水道ビジョン（厚生労働省）」による水道のあるべき将来像の提示

[策定の趣旨]

当村の簡易水道事業等においても、多額の投資を必要とする老朽施設の更新や耐震化等施設の高度化を進める一方で、施設の統廃合や維持管理の効率化等による事業経営の安定化を図っていく必要に迫られております。

このため、近年の社会経済情勢の変化や水道事業の状況と厚生労働省による「水道ビジョン」の提示を踏まえ、当村簡易水道事業等が抱える課題を明らかにし、今後の目標及び整備内容を示した「戸沢村水道ビジョン」を策定することとしました。

[計画期間]

2009年度（H21）～2018年度（H30）

事業内容

1. 事業概要

戸沢村の水道は、昭和45年度に角川・古口簡易水道を創設して以来、各地に簡易水道・飲料水供給施設を設置し平成20年度現在では、簡易水道2箇所（角川・古口、戸沢）・飲料水供給施設1箇所（草薙）の計3箇所の水道事業が整備されています。

角川・古口簡易水道は、村の南部に位置し、最上川の支流である角川沿線の山間部に散在した集落を給水区域とし、昭和45年9月3日に計画給水人口2,700人、一日最大給水量486m³/日として創設されました。その後、昭和58年3月に第1次拡張事業を行い計画給水人口2,430人、一日最大給水量652m³/日とし、平成7年3月には西沢地区の未普及地区解消と古口浄水場建設の第2次拡張事業を行い計画給水人口2,390人、一日最大給水量1,230m³/日に拡張し、平成13年3月には平根地区未普及地域解消と平根浄水場建設の第3次拡張事業を行い計画給水人口2,280人、一日最大給水量1,230m³/日に拡張し、平成14年8月には蔵岡簡易水道と統合の第4次拡張事業を行い計画給水人口2,470人、一日最大給水量1,090m³/日として現在に至っています。



平根浄水場

戸沢簡易水道は、村の北東に位置し、最上川の支流である鮭川流域の集落を給水区域とし、昭和47年8月21日に計画給水人口4,100人、一日最大給水量680m³/日とし創設されました。その後、平成10年12月に第1次拡張事業を行い計画給水人口3,580人一日最大給水量1,500m³/日とし、平成16年3月には金打坊飲料水供給施設と統合により計画給水人口3,600人、一日最大給水量1,560m³/日に拡張し現在に至っています。



戸沢浄水場

草薙飲料水供給施設は、村の西端の最上川左岸に位置し、本村の観光産業の中心である草薙温泉、風光明媚な白糸の滝で知られた集落を給水区域とし、昭和47年8月30日に計画給水人口90人、一日最大給水量27m³/日として創設され現在に至っています。

2. 事業実績

2.1 給水実績

表 -1行政区域内人口及び給水人口

項目	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
行政区域内人口(人)	6,791	6,688	6,611	6,507	6,403	6,346	6,202	6,105	5,989	5,882
給水人口(人)	5,885	4,794	5,815	5,915	5,811	6,259	6,109	6,034	5,905	5,803
角川・古口簡易水道	2,200	2,095	2,224	2,305	2,252	2,613	2,582	2,546	2,436	2,406
戸沢簡易水道	3,625	2,638	3,532	3,556	3,507	3,596	3,479	3,444	3,434	3,361
草薙飲料供施設	60	61	59	54	52	50	48	44	35	36
普及率(%)	86.7	71.7	88.0	90.9	90.8	98.6	98.5	99.7	99.4	99.5

注)普及率は、柏沢除く

図 -1行政区域内人口及び給水人口

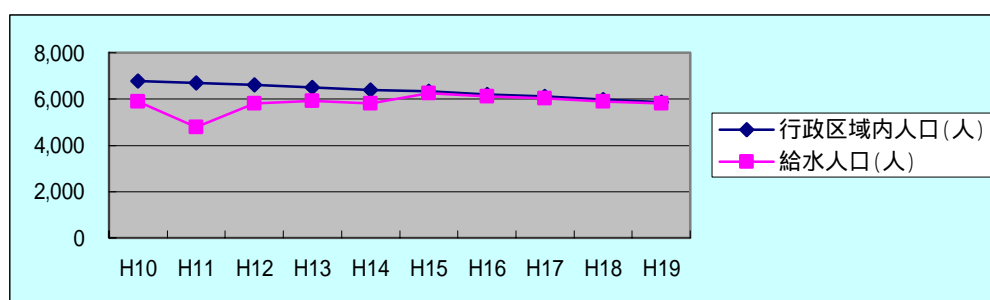


表 -2総配水量及び有収水量

項目	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
総配水量(m ³)	696,110	754,449	696,273	784,780	808,804	711,531	711,220	675,674	634,576	609,601
有収水量(m ³)	525,228	546,924	550,037	541,726	513,452	515,430	515,605	500,823	509,759	492,367
有収率(%)	75.5	72.5	79.0	69.0	63.5	72.4	72.5	74.1	80.3	80.8

図 -2総配水量及び有収水量

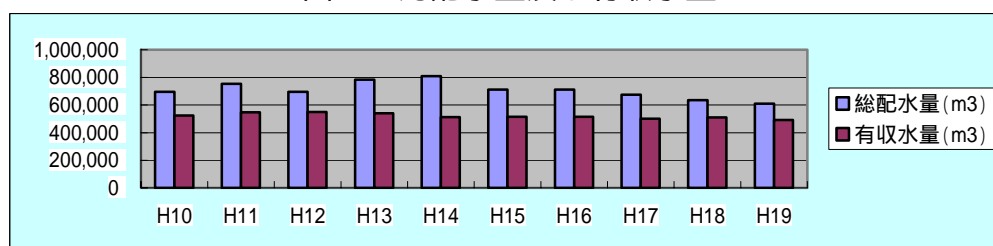
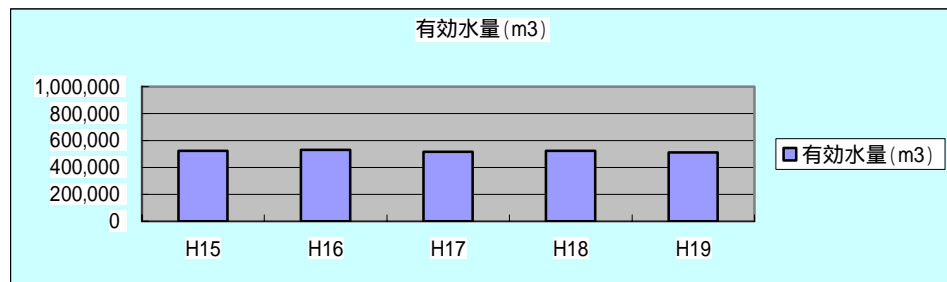


表 -3有効水量の実績

項目	H15	H16	H17	H18	H19
有効水量 (m3)	523,630	530,105	516,028	523,309	512,241
角川・古口簡易水道	188,627	192,256	188,249	190,857	182,672
戸沢簡易水道	305,943	308,470	298,850	303,552	300,405
草薙飲料供施設	29,060	29,379	28,929	28,900	29,164
有効率 (%)	73.6	74.5	76.4	82.5	84.0

図 -3有効水量の実績



2.2 決算概要

表 -4収益的収支の実績

項目	H17	H18	H19
営業収益	126,785	128,467	141,949
営業費用	66,692	66,025	56,876
営業外収益	155	90	157
営業外費用	45,273	46,354	46,434
特別利益	0	0	0
特別損失	0	0	0
経常利益	14,974	16,179	38,796

表 -5資本的収支の実績

項目	H17	H18	H19
資本的収入	368,432	284,911	182,286
資本的支出	376,840	294,245	214,097
収支差引	8,408	9,334	31,811

2.3 施設概要

2.3.1 角川・古口簡易水道

(1) 取水施設

表 -6取水施設の概要

水 源 名	種 別	計画取水量
鹿ノ沢川水源	表流水	休止
古口水源(浅井戸)	地下水	486m ³ /日
平根水源(第1、第2)	地下水	717m ³ /日
蔵岡水源(第1、第2、第3)	湧水	休止
計		1,203m ³ /日

(2) 浄水施設

表 -7浄水施設の概要

浄水施設名	浄水方法	計画浄水量
古口浄水場	徐鉄徐マンガン、膜ろ過方式	485m ³ /日
平根浄水場	急速ろ過方式	717m ³ /日
計		1202m ³ /日

(3) 配水池

表 -8配水池の概要

項 目	池数	容量
配水池	6池	1,186m ³

(4) 管路

表 -9管路の概要(用途別)

用 途 別	延長(m)
導水管	9,937
送水管	10,892
配水管	30,417
計	51,246

表 -10管路の概要(管種別)

管 種 別	延長(m)
ダクタイル鋳鉄管	152
鋼管	12,968
石綿セメント管	483
硬質塩化ビニル管	29,196
その他の管	8,447
計	51,246

2.3.2 戸沢簡易水道

(1) 取水施設

表 -11取水施設の概要

水 源 名	種 別	計画取水量
名高第1水源	地下水	1,200m ³ /日
名高第1水源	地下水	516m ³ /日
計		1,716m ³ /日

(2) 浄水施設

表 -12浄水施設の概要

浄水施設名	浄水方法	計画浄水量
名高浄水場	膜ろ過方式	1,716m ³ /日

(3) 配水池

表 -13配水池の概要

項 目	池数	容量
配水池	7池	1,014m ³

(4) 管路

表 -14管路の概要(用途別)

用 途 別	延長(m)
導水管	178
送水管	4,588
配水管	35,968
計	40,734

表 -15管路の概要(管種別)

管 種 別	延長(m)
ダクタイル鋳鉄管	9,932
鋼管	905
石綿セメント管	320
硬質塩化ビニル管	27,854
その他の管	723
計	40,734

2.3.3 飲料水供給施設

表 -16飲料水供給施設の概要

水道名	創設年度	計画給水人口	現在給水人口	計画給水量
草薙飲料水供給施設	S48	90人	36人	27m ³ /日

Ⅲ 現状分析・評価

1. 安全・快適で安定した水の供給

1.1 水源の状況

戸沢村の簡易水道は、地下水を水源としており、水質が良好で安定していますが、「水源余裕率」が低いため効率性は高いものの、ゆとり度は低い状況となっています。

また、取水量に対する有効水量の割合が低く、配水管及び給水施設での漏水発生が考えられています。

業務指標		H17	H18	H19
1001水源利用率	※1	61.7%	58.0%	55.7%
1002水源余裕率	※2	4.9%	7.6%	26.4%
1003原水有効利用率	※3	73.0%	79.3%	77.6%
1004自己保有水源率	※4	100.0%	100.0%	100.0%

※1 水源の「ゆとり度」、水源の「効率性」を示す指標

※2 「渇水に対する安全性」を示す指標

※3 原水利用の「有効性」を示す指標

※4 水源運用の自由度を表す指標

1.2 水需要の状況

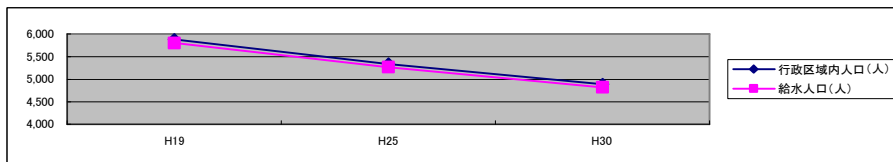
戸沢村の人口は、年々減少しており、平成 20 年 3 月末現在で約 5,900 人となっています。

総配水量の実績は、これまで右肩上がりの増加を続けてまいりましたが、平成 14 年度の約 80 万 m^3 をピークに平成 19 年度は約 60 万 m^3 に減少しています。

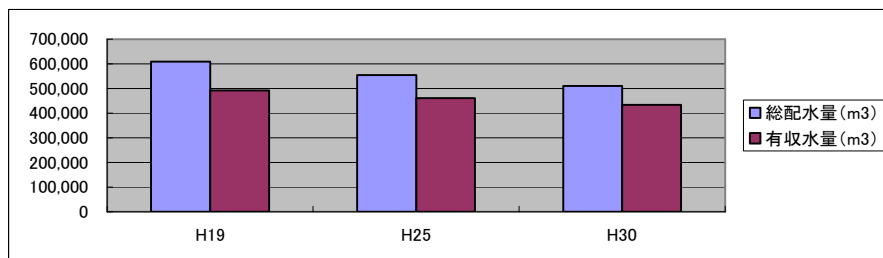
このため、将来的な水需要は、人口の減少に伴い減少の傾向で推移していくものと予測されます。

項 目	H19	H25	H30
行政区域内人口(人)	5,882	5,337	4,886
給水人口(人)	5,803	5,266	4,820
普及率(%)	99.5	99.5	99.6

注)普及率は、柏沢除く



項 目	H19	H25	H30
総配水量(m ³)	609,601	554,800	511,000
有収水量(m ³)	492,367	460,995	434,715
有収率(%)	80.8	83.1	85.0



1.3 水道普及の状況

給水普及率は、平成 19 年度で 99.5%に達し、県平均の 97.4% (平成 18 年度末)及び全国平均(平成 18 年度末 97.3%)を上回っています。

業務指標	H17	H18	H19
普及率(給水人口/行政区域内人口)	99.7%	99.4%	99.5%

注)普及率は、柏沢除く

1.4 水道施設の状況

戸沢村の水道は、一番古い角川・古口簡易水道が昭和 45 年に創設されていますので、建設後 40 年未満の比較的新しい施設となっています。

したがって、一部の電気・機械設備と石綿セメント管や硬質塩化ビニル管等の管路に老朽化が見られるものの、土木・建築施設については健全な状況を維持しています。

業務指標	H17	H18	H19
2101経年化浄水施設率 ※5	0.0%	0.0%	0.0%

※5 経年化した浄水施設の割合を示す指標

水道施設の耐震化の状況は、他の市町村と比較し、浄水施設、配水池の「耐震施設率」が高いものとなっています。

業務指標	H17	H18	H19
2207浄水施設耐震率 ※6	78.9%	78.9%	78.9%
2208ポンプ所耐震施設率 ※7	データなし	データなし	データなし
2209配水池耐震施設率 ※8	42.1%	42.1%	42.1%

※6 高度耐震化浄水施設能力の全浄水施設能力に対する割合を示す指標

※7 高度耐震化ポンプ施設能力の全ポンプ施設能力に対する割合を示す指標

※8 高度耐震化配水池容量の全配水池容量に対する割合を示す指標

水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を示す「浄水予備力確保率」がやや低いものの、「配水池貯蔵能力」は、一日平均配水量の1.34日(約32時間)分確保されています。

業務指標	H17	H18	H19
2003浄水予備力確保率 ※9	3.4%	4.1%	17.8%
2004配水池貯蔵能力 ※10	1.21日	1.29日	1.34日

※9 水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を示す指標

※10 給水に対する安全性、災害・事故等に対する危機対応性を示す指標

1.5 浄水水質の状況

浄水の水質は、地下水を水源としていることから、非常に良好な状況となっていますが、「塩素臭から見たおいしい水達成率」が低下しており、「総トリハロメタン濃度水質基準比」や「無機物質濃度水質基準比」等が高くなる傾向にあります。なお、水質検査は、毎日検査を除く定期水質検査を委託(山形県理化学分析センター等)で実施しています。

業務指標	H17	H18	H19
1104水質基準不適合率 ※11	0.0%	0.0%	0.0%
1105カビ臭から見たおいしい水達成率 ※12	100%	100%	100%
1106塩素臭から見たおいしい水達成率 ※13	100%	95%	80%
1107総トリハロメタン濃度水質基準比 ※14	4%	7%	10%
1108有機物(TOC)濃度水質基準比 ※15	8%	8%	6%
1109農薬濃度水質管理目標比 ※16	データなし	データなし	データなし
1110重金属濃度水質基準比 ※17	3%	データなし	3%
1111無機物質濃度水質基準比 ※18	12%	12%	23%
1112有機物質濃度水質基準比 ※19	7%	6%	24%
1113有機塩素化学物質濃度水質基準比 ※20	0%	データなし	0%
1114消毒副生成物濃度水質基準比 ※21	0%	0%	0%

- ※11 水質基準の適合性を示す指標
- ※12 水道水のおいしさを示す指標
- ※13 水道水のおいしさを示す指標
- ※14 水道水の安全性を示す指標
- ※15 水道水の安全性やおいしさを示す指標
- ※16 水道水の安全性を示す指標
- ※17 水道水の安全性を示す指標
- ※18 味や色など水道水の性状を表す指標
- ※19 水道水の基本的な性状を表す指標
- ※20 水道水の安全性を示す指標
- ※21 水道水の安全性を示す指標

1.6 水道施設の維持管理の状況

各施設の維持管理は、中央監視と現場操作方式により運転管理され、管路はマッピングシステム(※22)により適切に管理しています。

なお、「配水池清掃」、「設備点検」は適切に実施されていますが、「警報付施設率」が0%となっています。

業務指標	H17	H18	H19
2217警報付施設率 ※23	0.0%	0.0%	0.0%
5002配水池清掃実施率 ※24	100%	100%	100%
5110設備点検実施率 ※25	100%	100%	100%

- ※22 水道施設情報管理システム
- ※23 異常時に警報の発せられる施設数の全施設数に対する割合を示す指標
- ※24 清掃した配水池容量の全配水池容量に対する割合を示す指標
- ※25 管理の適正度を示す指標

1.7 応急給水、応急復旧体制

戸沢村地域防災計画として、災害時における飲料水の確保や水源の水質検査・保全、給水用資機材の調達、応急給水量(量、期間、順序、給水場所、広報等)、応急復旧、村内水道工事指定店の防災協力事業所指定等を定め、体制を整えています。

また、戸沢村では、被災事業体の応急給水及び応急復旧等に全面的に協力する「災害時相互応援協定」を日本水道協会山形県支部との間で締結し、事故や災害時の応急給水及び応急復旧の体制を整えています。

2. 安定した事業運営

2.1 経営・財務の状況

収益性を示す営業収支比率、経常収支比率、総収支比率は、100%以上で非常に高く、「発生経費を収入で賄う」自立した事業経営になっています。

業務指標		H17	H18	H19
3001営業収支比率	※26	190.1%	194.6%	249.6%
3002経常収支比率	※27	113.4%	114.4%	137.6%
3003総収支比率	※28	113.4%	114.4%	137.6%

※26 営業収益の営業費用に対する割合を示す指標

※27 経常収益の経常費用に対する割合を示す指標

※28 総収益の総費用に対する割合を示す指標

しかし、他会計からの「繰入金比率(資本的収入分)」が高く、水道水の製造単価である「給水原価」や「給水収益に対する企業債利息の割合」、「給水収益に対する企業債償還金の割合」が高い状況となっています。

今後、老朽施設の更新や施設の耐震化など新たな投資が必要となることから、厳しい財政運営となることが予測されます。

業務指標	H17	H18	H19
3006繰入金比率(資本的収入分)※29	24.0%	29.4%	47.9%
3009給水収益に対する企業債利息の割合 ※30	37.6%	38.3%	34.5%
3011給水収益に対する企業債償還金の割合 ※31	76.0%	93.2%	91.2%
3015給水原価 ※32	223.6円/m3	220.5円/m3	209.8円/m3

※29 水道事業の経営状況の健全性、効率性を示す指標
 ※30 事業の効率性及び財務安全性を分析するための指標
 ※31 企業債償還金が経営に与える影響を分析するための指標
 ※32 有収水量 1m³当たりの費用を示す指標

検針は委託により 100%実施しており、業務も各種電算システムにより効率的に実施しています。

業務指標	H17	H18	H19
5008検針委託率 ※33	100.0%	100.0%	100.0%

※33 検針を委託した水道メータ数の総数に対する割合を示す指標

2.2 職員の状況

「技術職員率」が0%になっており、施設維持管理上の観点からは非常に脆弱な状況にあります。

業務指標	H17	H18	H19
3105技術職員率 ※34	0.0%	0.0%	0.0%

※34 技術職員総数の全職員数に対する割合を示す指標

2.3 需要者サービス

給水サービスの充実を図るためには、消費者ニーズの把握が必要です。広報誌の配布による「水道事業に係る情報の提供度」や「水道施設見学者割合」は、ある程度評価できるものの、「アンケート情報収集割合」が0%になっており、消費者ニーズの把握が十分と言えない状況となっています。

業務指標	H17	H18	H19
3201水道事業に係る情報の提供度※35	0.9部/件	0.9部/件	0.9部/件
3203アンケート情報収集割合 ※36	0.00人/1000人	0.00人/1000人	0.00人/1000人
3204水道施設見学者割合 ※37	5.2人/1000人	5.1人/1000人	5.2人/1000人

※35 広報誌配布部数の給水件数に対する指標

※36 消費者のニーズの収集実行度を示す指標

※37 給水人口 1000 人当たりの水道施設見学者数を示す指標

3. 環境影響

3.1 環境対策の実施状況

配水量 1m³ 当たりの「電力消費量」、「消費エネルギー」、「二酸化炭素(CO₂)排出量」は比較的高い状況となっています。

業務指標	H17	H18	H19
4001配水量1m ³ 当たり電力消費量※38	データなし	データなし	0.99kwh/m ³
4002配水量1m ³ 当たり消費エネルギー ※39	データなし	データなし	3.56MJ/m ³
4006配水量1m ³ 当たり二酸化炭素(CO ₂)排出量 ※40	データなし	データなし	468g・CO ₂ /m ³

※38 環境保全への取り組みの度合いを見る指標

※39 取水から給水栓まで 1m³の水を送水するまでに要した消費エネルギー量を示す指標

※40 経年的比較により、環境負荷の低減を見る指標

有効率は、経年的に向上している状況となっています。

業務指標	H17	H18	H19
有効率 ※41	76.4%	82.5%	84.0%

※41 有効水量を給水量で除したもの

課題

1. 安全・快適で安定した水の供給

1.1 水源

現 状	課 題	今後の取り組み方針
取水量に対する有効水量の割合が低く、配水管及び給水施設での漏水発生が考えられています。また、平根水源での取水量の減少が顕在化しています。	1.1.1配水管及び給水施設での漏水量の低減	・配水管及び給水施設の漏水調査 ・老朽管の更新

1.2 水需要

現 状	課 題	今後の取り組み方針
水需要が減少しており、将来的にも減少する見込みです。	1.2.1水需要量の安定化	・料金体系の見直し

1.3 水道施設の耐震性

現 状	課 題	今後の取り組み方針
浄水施設、配水池の「耐震率」は比較的高い状況です。	1.3.1今後の耐震化の向上	・施設更新による耐震化の推進

1.4 施設の管理

現 状	課 題	今後の取り組み方針
水道施設への警報設備がありません。	1.4.1危機管理の強化	・危機管理の見直し

2. 安定した事業運営

2.1 経営・財務

現 状	課 題	今後の取り組み方針
給水収益に対する「借入れ返済額」が多く、「給水原価」も高い状況になっています。	2.1.1借入れ返済額の低減 2.1.2給水原価の低減	・企業債の借換等の実施 ・人件費、経費の見直し

2.2 老朽施設

現 状	課 題	今後の取り組み方針
一部の電気・機械設備と石綿セメント管や硬質塩化ビニル管等の管路に老朽化が見られるものの土木・建築施設は健全な状況を維持しています。	2.2.1 今後の老朽化施設の更新	・更新費用の財源確保

2.3 職員

現 状	課 題	今後の取り組み方針
「技術職員率」が0%で、施設維持管理上の観点から脆弱な状況にあります。	2.3.1 技術職員の確保	・職員配置の見直し

2.4 需用者サービス

現 状	課 題	今後の取り組み方針
消費者ニーズの把握が十分と言えない状況です。料金収納率は、98%程度となっています。	2.4.1 給水サービスの向上 2.4.2 料金支払い方法等、顧客サービスの向上	・消費者ニーズの把握と給水サービスの充実 ・情報提供の充実 ・利用者サービスの充実

3. 環境影響

3.1 環境負荷

現 状	課 題	今後の取り組み方針
配水量1m3当たりの「電力消費量」、「消費エネルギー」、「二酸化炭素(CO2)排出量」は比較的高い状況です。また、有効率は、経年的に向上していますが、まだ低い状況です。	3.1.1 環境負荷の低減 3.1.2 有効率の向上	・環境負荷低減対策の実施 ・配水管及び給水施設の漏水調査 ・老朽管の更新

事業計画及び財政計画

1. 事業計画

表 -1年度別事業費

単位:千円

事業名	H21	H22	H23	H24	H25	H26
角川・古口地区配水管布設	15,000	10,000	10,000	10,000	60,000	60,000
角川・古口地区水管橋築造	5,000	100,000	105,000			
戸沢地区配水管布設	10,000	10,000	10,000			10,000
老朽管更新	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
草薙飲料水供給施設更新				100,000		
耐震診断・事業認可委託			5,000			
計	50,000	140,000	150,000	130,000	80,000	90,000

表 -2年度別事業費

単位:千円

事業名	H27	H28	H29	H30	計	H31以降
角川・古口地区配水管布設	50,000	20,000			235,000	
角川・古口地区水管橋築造					210,000	
戸沢地区配水管布設	15,000	10,000			65,000	
老朽管更新	20,000	20,000	20,000	20,000	200,000	
草薙飲料水供給施設更新					100,000	
耐震診断・事業認可委託	15,000				20,000	
計	100,000	50,000	20,000	20,000	830,000	

2. 財政計画

表 -3収益の収支

単位:千円

項目	H21	H22	H23	H24	H25	H26
収 益	151,119	162,273	157,919	151,479	149,248	155,360
費 用	99,641	98,418	101,294	104,309	105,508	104,711
経 常 利 益	51,478	63,855	56,625	47,170	43,740	50,649

表 -4収益の収支

単位:千円

項目	H27	H28	H29	H30	計	備考
収 益	157,694	160,222	162,316	165,492	1,573,122	
費 用	104,390	105,418	104,949	104,859	1,033,497	
経 常 利 益	53,304	54,804	57,367	60,633	539,625	

表 -5資本的収支

単位:千円

項 目	H21	H22	H23	H24	H25	H26
収 入	141,167	227,662	235,761	220,708	167,594	178,142
支 出	183,588	285,595	290,741	266,715	202,426	216,312
収 支 差 引	-42,421	-57,933	-54,980	-46,007	-34,832	-38,170
繰 越 金	9,057	5,922	1,645	1,163	8,908	12,479

表 -6資本的収支

単位:千円

項 目	H27	H28	H29	H30	計	備考
収 入	180,715	139,748	113,228	114,101	1,718,826	
支 出	216,750	173,557	144,792	146,438	2,126,914	
収 支 差 引	-36,035	-33,809	-31,564	-32,337	-408,088	
繰 越 金	17,269	20,995	25,803	28,296	28,296	

事業統合への取組み

戸沢村の水道事業会計は、戸沢村簡易水道事業特別会計により一本化されていますが、事業は、簡易水道 2 事業と飲料水供給施設 1 事業に分かれています。

今後の水道事業は、人口及び水使用量の減少により料金収入の増加が望めない中、老朽施設の更新や施設の耐震化等を適切に実施し、事業の継続を図っていく必要があります。

このため、平成 28 年度を目途に「施設の更新、機能向上事業の合理的実施」や「建設投資の合理化」等のメリットが期待できる事業の統合を目指します。

なお、現状で事業統合した場合には、給水人口が 5,001 人以上(上水道)となりますが、平成 28 年度の人口は、5,000 人以下となる予測となっています。

したがって、事業統合による創設事業の認可は、人口予測を適切に実施した上で、上水道事業あるいは簡易水道事業いずれかを選択し事業認可を取得します。